学校教育目標		夢・志をもち、社会を「生き抜く力」を育む ～ 自立・自律・自学 ～				総合評価	
運営方針		<ul style="list-style-type: none"> ・小中間及び家庭との連携を軸とした学習活動の工夫から基礎・基本の定着を図ると共に、主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫をすすめる。 ・自尊感情をはじめ自己有用感および自己効力感の向上により非認知能力を伸ばし、一人一人が「来てよかった、明日も行こう、行きたい」と言える学校教育の推進に努める。 ・運動を通じた体力の向上を図ると共に、健康で安全な生活習慣を確立し、心身共に、たくましい生徒の育成に努める。 ・あいさつ運動をはじめ、防災活動やボランティア活動などPTA及び自治会等地域組織との協働・参画を図る。 ・教職員の資質・能力の向上を図り、働き方改革を推進する。 					
令和4年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標		B	
<p>○基礎学力定着に向け教員はわかりやすい授業への取り組みを推進している。確認方法として、今年度は生徒アンケートで「めあて」「振り返り」の定着度についての項目を設ける。</p> <p>●家庭学習への取組が不十分であるため、今年度も小中の共通の課題として取り組みを進める。</p> <p>○昨年の小学生が実際に来校しての体験入学とふるさと学習交流会の実施では子ども同士良い影響があった。今年度更に交流を深めるための検討を進める。</p> <p>○●小中合同防災教育については、更に小学生が一緒に参加出来るパートを増やせるよう検討をすすめる。</p> <p>・部活動の地域移行への取組として、拠点校形式の運営方法の検討を進める。</p>		◎確かな学力の育成		<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着を目指した授業の工夫 ○家庭学習の習慣化 ○小中一貫教育による系統性及び連続性を持たせた学習活動の工夫 			
		◎豊かな心の育成		<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情をはじめ自己有用感および自己効力感の育成 ○行事や生徒会活動を通じた生徒の自主性及び主体性の涵養 			
		◎活力ある心身の育成		<ul style="list-style-type: none"> ○運動を通じた体力の向上 ○健康・安全教育の充実 			
		◎特色ある学校づくり		<ul style="list-style-type: none"> ○小中で一貫した地域と連携したふるさと学習の取り組みの構築 ○児童・生徒会活動等の合同実施を通じた児童・生徒の育ち ○コミュニティスクールの推進 			
		評価項目		具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)
◎確かな学力の育成	○基礎学力の定着を目指した授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・非認知能力の育成を目指す授業の構築 ・学習場面の「めあて」「振り返り」を大切に、わかりやすい授業の実施8割を目指す。 ・ステップ学習、地域未来塾の開設による学習機会の確保(平均月2回) ・ICTを活用した分かる授業の実施 ・朝読書・図書館の活用による読書習慣の定着(貸出目標5冊) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中部学園合同の研修会で非認知能力の育成について講演会等で教員の資質を高めるとともに、授業方法について工夫をすすめている。 ・わかりやすい授業については、生徒の9割、保護者の8割がアンケートで「そう思う」「ほぼそう思う」の回答を得ることができている。 ・平均月2回の学習機会の確保についてはほぼ達成できた。 ・読書週間の定着については目標を下回り、2冊程度にとどまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非認知能力を高める取り組みについて職員で指導方法を検討する等の研修を持つ ・読書冊数を達成出来なかったのはセレクトタイム導入による朝読書の時間減の影響が大きい。時間の確保に検討が必要である。 ・家庭学習をほとんどしない生徒が2割を超えることを考慮すると、すららを宿題にする等学習に取り組みざるを得ない状況を作ることも検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の充実を図り、研修を大切にしている ・授業内容が理解出来ているのか確認するためにも「めあて」と「振り返り」を継続してください。学習習慣をつけるために宿題を出すのも一つの方法かも。
	○家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習ノートやすららネットの活用による家庭学習時間の習慣化(学園目標時間の7割) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・すららネットの活用は進んでいるが、目標時間の5割に満たなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「すらら」も含め、生徒のIT活用能力の高さも利用した学びが推進されると良いと思う。 	
	○小中一貫教育による系統性及び連続性を持たせた学習活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同による授業研究等研修の実施(学期1回) ・小中合同研究部会の運営による各取組の推進 ・教員の相互派遣による児童生徒への授業の実施 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主任やコーディネーターの連携により、合同研修や研究部会については、今年度目標を達成し、今後の方向性を見いだすことができた。 ・授業の相互派遣については方法について小中で検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研修の機会に教員間で話す機会を多く設定されたことで意見交流が進みつつある。今後も継続した機会の設定が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ朝読書・図書館の活用を
◎豊かな心の育成	○自尊感情をはじめ自己有用感および自己効力感の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育・道徳教育の充実に向けた研修の実施 ・生徒一人一人に寄り添う生徒指導の充実。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域諸機関と連携し、学習機会の保障及び講演会等行事を実施した。 ・今年度もLGBTについて講師を招き、1年生生徒と保護者に対し講演を行った。 ・授業以外にも校門立哨や保健室対応等の機会を捉え、生徒一人ひとりの状況や心情に寄り添うよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習の多様な機会の確保のため、講演会を継続する。 ・不登校傾向生徒への対応として、保護者との連携、また別室登校対応、適応指導教室との連絡連携の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事へ積極的に参加し自主的に取り組んでいるのが良い。また学年を越えての取り組み活動の意義は大きいと思う。
	○行事や生徒会活動を通じた生徒の自主性及び主体性の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育の推進 ・個に応じた特別支援教育の充実 ・スクールカウンセラー等専門家と連携した生徒指導の推進 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・TTや取り出し授業等により生徒個々の特性や進路に応じた学習指導を実施している。 ・生徒指導については、常に生徒の状況把握に努め、また、スクールカウンセラーと連携し、生徒や保護者への支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事については、コロナ禍で生まれた工夫も取り入れたより良い新しい形にするべく検討を続ける。 ・生徒会と各種専門委員会については、更に自主的な活動が出来るよう指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団でいることが苦手な子が増え、虐待やヤングケアラーも問題となっています。家庭と連携しながら先生方には引き続き目配りをお願いします。
	○運動を通じた体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会や合唱コンクール等行事への取り組みを通じた学級での仲間づくりの推進。楽しみにしている学校行事がある8割以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の学校生活が楽しく充実しているの回答に生徒の8割、保護者についても8割を超える肯定的回答があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事については、コロナ禍で生まれた工夫も取り入れたより良い新しい形にするべく検討を続ける。 ・生徒会と各種専門委員会については、更に自主的な活動が出来るよう指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「委員会・係活動に積極的に取り組んでいる」の8割が肯定的な回答であった。生徒会も積極的に動くことが出来ている。委員会活動について生徒達が係の責任を果たすことができていた。
◎活力ある心身の育成	○健康・安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室の開催等安全教育の充実(学期1回) ・自転車通学生徒への安全指導の徹底 ・小中合同防災教育の推進 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は薬物乱用防止教室と思春期教室を開催し、交通安全については自転車通学生徒への指導を行った。避難訓練については年1回にとどまった。 ・自転車通学生徒への安全指導の徹底 ・小中合同防災教育を実施し、今年度は講師より当時の体験を聞かせていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のメディアの利用時間を考慮し、ネットに潜む危険性等について学習する機会を設定する。 ・コロナ禍で実施できていなかった不審者対応の避難訓練及び教員の危機管理研修の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「睡眠」「朝食」等基本的な生活習慣が確立できるよう継続して指導をお願いします。
	○運動を通じた体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を通じた体力づくりの推進 ・拠点校方式による部活動運営の整備 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運動系部活動に5割の生徒が所属活動を行った。 ・拠点校方式による部活動運営については、学校間の距離もあり、運営が難しいのが実情である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行に伴い、学校での活動について地域との連携の形を整える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での部活動が、生徒の減少により団体競技が成り立たない、またスクールバス利用や指導者の問題もある。地域移行についても親子とも安心して運動できる環境を整備できないと、運動しない子が増えるのではないかと心配です。
	○基本的生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理についての正しい理解と実践 ・食育の推進 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻する生徒はほぼいないが、5時間睡眠を確保出来ていない生徒が2割いる。またスマホの使用時間が4時間を越え睡眠不足の一因となっていると思われる。今後成長期における睡眠の大切さを含めて指導が必要。 ・給食週間の取組を通して食品ロスについて考え、SDGsを実践しようとする意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの徹底と、学習時間や睡眠時間確保のためにも、メディア利用時間を自律的にコントロール出来るように、授業や講演会で講師を取り入れても良いかも。 	
◎特色ある学校づくり	○小中で連携したふるさと学習の取り組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと学習交流会」等児童生徒間の交流の機会の設定 ・「ふるさと学習」の系統化により、五條市の歴史や産業について知識や関心を深めた8割以上 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・合同被災地見学の機会を「ふるさと学習」交流を図るの機会とし継続することができた。 ・「ラフティング体験」「柿の選果場体験」「鬼走り講演会」を開催し、アンケートでは目標の8割以上を達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の児童生徒を集合させることが容易ではないため、各校で学習したい内容についてレポートや掲示物にまとめ、回覧・掲示する等工夫を進め、交流の機会を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外で出会った時、挨拶できる子がたくさんいます。大変うれしいことです。引き続きあいさつ運動に力を注いで欲しいです。
	○児童・生徒会活動等の合同実施を通じた児童・生徒の育ち	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同あいさつ運動等児童生徒会の交流の機会の充実 ・新入学生徒への「体験入学」の実施等、交流授業の取組及び情報発信の実施 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同あいさつ運動より児童生徒会の交流の機会を持つことができた。また、小学生がソーラン節の見学に訪れ、その時の感想を中学校に掲示する等の交流を行うことが出来た。 ・「体験入学」を今年度は対面で実施することが出来た。また、高校の生徒も招き、小中高がスピーチを行うことで交流の機会にもなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中間の連携を進め、児童生徒が交流する中で互いに良い刺激を受ける機会となるよう検討をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと学習では小学校との取組内容の連携を密にして、歴史ある五條市を誇りと思えるように学びを深めてもらいたい。発表の場があればプレゼン能力を高める機会にもなると思う。
	○コミュニティスクールの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・五條中部学園としての学校運営協議会の運営 ・パートナーシップ事業の活用による地域ボランティアの活動の充実 ・PTA活動の活性化及び地域連携の推進 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・五條中部学園としての学校運営協議会を開催運営することが出来た。 ・地域ボランティアの活動の充実について、今年度部活動の指導に大学生の協力を得ることが出来た。 ・コロナ禍の影響も残り、PTA活動については一部活動を再開したが、地域連携の推進は少し進んだ程度に止まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの人員の確保に努める。 ・PTA活動についてこれまでの活動を吟味し、現状に合った活動の形へと整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学も良い機会だが、その他の機会も増えればより交流が深まると思う。 ・行事に保護者が参加しやすい時間を設定したけるとありがたいです。
今年度の成果と次年度への課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部学園として合同研修や研究授業等に取り組み、小中一貫教育を推進することができた。 ・生徒会を中心に、生徒達が積極的に行事や委員会活動に参加できている。 ・個に寄り添う学びや生徒指導により、生徒達のほとんどが落ち着いた状態で充実した学校生活を送ることが出来ている。 		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のほぼ2割に家庭学習の習慣が無く、全体的にも取り組む時間が短い。学力を向上させるには学習習慣の定着を図らねばならない。 ・メディアリテラシーについての学習や危険性スマホ利用時間のコントロールについて、引き続き小中連携した取り組みを進める必要がある。 ・小中連携の取り組みと話し合いを進める中、様々な改善点が挙げられてきている。コーディネーターを中心に良い形となるよう検討を進める。 				